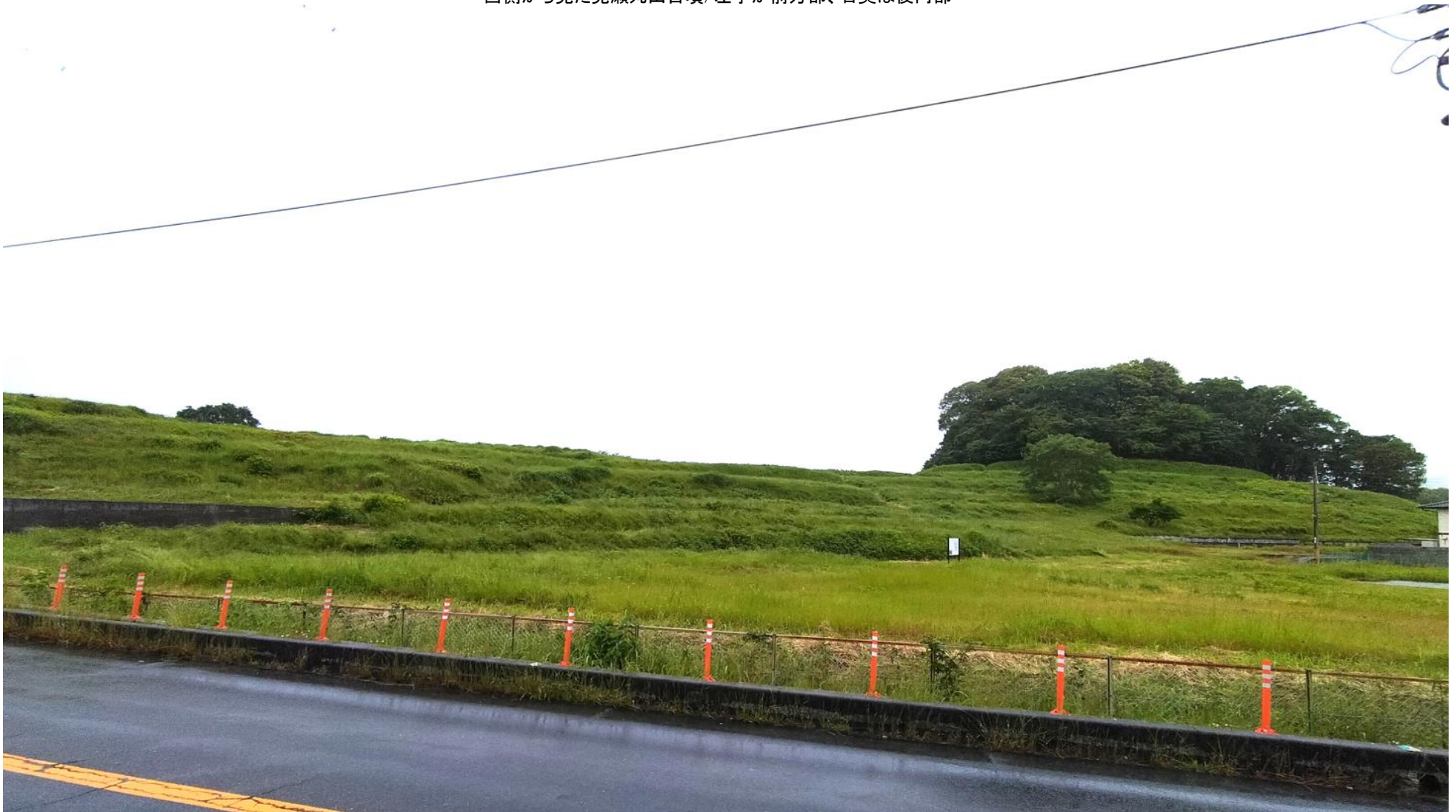


見瀬丸山古墳(五条野丸山古墳) (橿原市)

西側から見た見瀬丸山古墳/左手が前方部、右奥は後円部



南西側から括れ部の辺りを見たところ/左手に説明板が立っている

 [video](#)



そこで、左手に前方部を見たところ



同じく、右手に後円部を見たところ

[video](#)



6世紀後半に築造された、墳丘長約330mの日本最大の横穴式石室をもつ前方後円墳

国史跡

(昭和44年5月23日指定)

丸山古墳

平成31年3月

橿原市教育委員会

古墳の概要

古墳時代後期（6世紀後半）に築かれた巨大な前方後円墳です。明日香村の甘樫丘から西方へ広がる丘陵の西端部を利用して築かれており、前方部を北西に向けています。墳丘の周りには、周壕と周堤が構築されています。

古墳の規模は墳丘長約330m、後円部径約150m、同高約21m、前方部幅約210m、同高約15mを測ります。奈良県内で最大、全国でも6番目の大きさです。墳丘長は東京タワーの高さにも匹敵します。古墳一帯は後世に農地として利用されるなど大幅な土地改変が行なわれており、その様子が右の測量図でも確認できます。現在の国道169号線も実は、墳丘北西隅に該当する位置を通過しているのです。

日本最大の横穴式石室

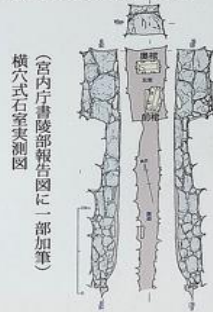
後円部上段付近は、宮内庁が管理する畝傍陵墓参考地に指定されており、立ち入りはできません。その範囲内に南に開口する横穴式石室が存在しています。石室全長約28.4mを測る、全国でも最大規模の石室です。長さ約20mもの非常に長い羨道をもつ点も特徴です。玄室内には2基の家形石棺が安置されています。どちらも兵庫県加古川付近で採られた葦石で作られています。

被葬者は……？

丸山古墳の被葬者については議論が続いており、欽明天皇や蘇我稲目などの名前が挙げられています。いずれも当時、国の中枢にあった人物です。この時期以降、巨大前方後円墳は造られなくなり、墳墓の在り方が新たな形に変容していきます。丸山古墳は、明日香村所在の平田梅山古墳（現・欽明天皇陵）とともに、『前方後円墳の時代』の終焉を示す遺跡として注目されています。



南上空から見た丸山古墳（1997年撮影）



（宮内庁書陵部報告図に一部加筆）
横穴式石室測量図



丸山古墳測量図（等高線は20cm間隔。提供：京都橘大学・大手前大学）

Maruyama Tomb (National Historic Site)

国家指定历史遗址 丸山古坟

사적 丸山 (마루야마) 古墳 (고분)

The Maruyama Tomb is a gigantic keyhole-shaped tomb built during the latter half of the 6th century (approx. 1500 years ago). The mound is 330m in size, making it the 6th largest tomb in Japan, and the largest within Nara Prefecture.

The burial facility consists of a horizontal stone chamber 28m in length, which is also the largest stone chamber in Japan. Inside, it contains 2 house-shaped stone coffins.

丸山古墳は6世紀後半（約1500年前）建造の巨大な前方後円墳。墳丘の規模は330m、日本第6大、奈良県第1大の古墳。其埋葬施設は長さ28mの横穴式石室、日本最大の石室。在里面に2基の家形石棺が納められている。

마루야마 고분은 6세기 후반 (약 1500년 전)에 축조된 거대한 전방후원분(前方後円墳)입니다. 분구 규모는 330m 있습니다. 일본에서 여섯 번째이며, 나라현 내에서는 가장 큰 고분입니다. 매장 시설은 횡혈식석실입니다. 길이가 28m나 되는 일본 최대의 석실입니다. 그 내부에는 2기의 가형(家形)석관이 안치되어 있습니다.

令和7年 撮影

石室内部には2基の刳拔式家形石棺がL字型に直交するように置かれているが、その二つの石棺の製造時期などを巡って様々な見解があるようだ



南上空から見た丸山古墳（1997 年撮影）

前方部の北西隅が国道によって削られてしまっている



墳丘に登る途上の段築の辺りで、前方部方向を見たところ



同じく、後円部方向を見たところ

[video](#)



そこから後円部方向に進み、陵墓参考地に指定されている後円部の柵を見たところ



そこで、振り返って前方部方向を見たところ



同じく、後円部墳頂を見上げたところ



後円部の後ろに回って、南西側から北東方向に墳丘斜面を見たところ



そこで、左手を見ると説明板や標柱などが立っていた



くに 指定 史跡

丸山古墳

(昭和44年5月23日 指定)

「飛鳥・藤原」を世界遺産に!

世界遺産「飛鳥・藤原」を世界遺産に! (飛鳥・藤原を世界遺産に! 飛鳥・藤原を世界遺産に! 飛鳥・藤原を世界遺産に!)



墳丘の全長
約340m
前方部の先端幅
約210m
前方部の高さ
約15m
後円部の直径
約150m
後円部の高さ
約21m

一空から見た丸山古墳



横穴式石室断面図
(宮内庁考古研究所蔵)

石室の全長 約28.4m
羨道の全長 約20m
羨道の幅 約1.4~2.5m
羨道の高さ 約1.3m以上
玄室の全長 約8.3m
玄室の幅 約3.6~4m
玄室の高さ 約3.9m以上

古墳時代後期(6世紀後半頃)に築かれた巨大な前方後円墳です。その全長は奈良県下で最大、国内でも6番目の規模を誇ります。

墳丘と周囲の大部分が国の史跡に指定されているとともに、後円部頂上の木々が茂っている場所は陵墓参考地(畝傍陵墓参考地)となっています。五条野町・大経町そして見瀬町に亘る丘を削ったり、土を盛り上げて造ったと考えられています。後円部上には南に開く横穴式石室があり、その全長は石舞台古墳(奈良県明日香村)よりも約9m長く日本最大の規模です。また、他の古墳と比べて丸山古墳の羨道は、玄室に対して非常に長く造られていることも特徴の一つです。

玄室内には2基の割版式家型石棺があり、奥にある石棺と手前にある石棺が逆し字形に配置されています。石棺の蓋にある縄掛突起の形などから手前に置かれている石棺が古く、奥の石棺が新しいと考えられています。また、両石棺の石材は兵庫県加古川付近で採られた竜山石(凝灰岩)を利用しています。

丸山古墳に葬られた人は、欽明天皇や蘇我稲目など当時の我が国を治めた人物が有力視されています。

橿原市教育委員会



奥にある石棺一南より撮影 (右奥は室内庁書院蔵)

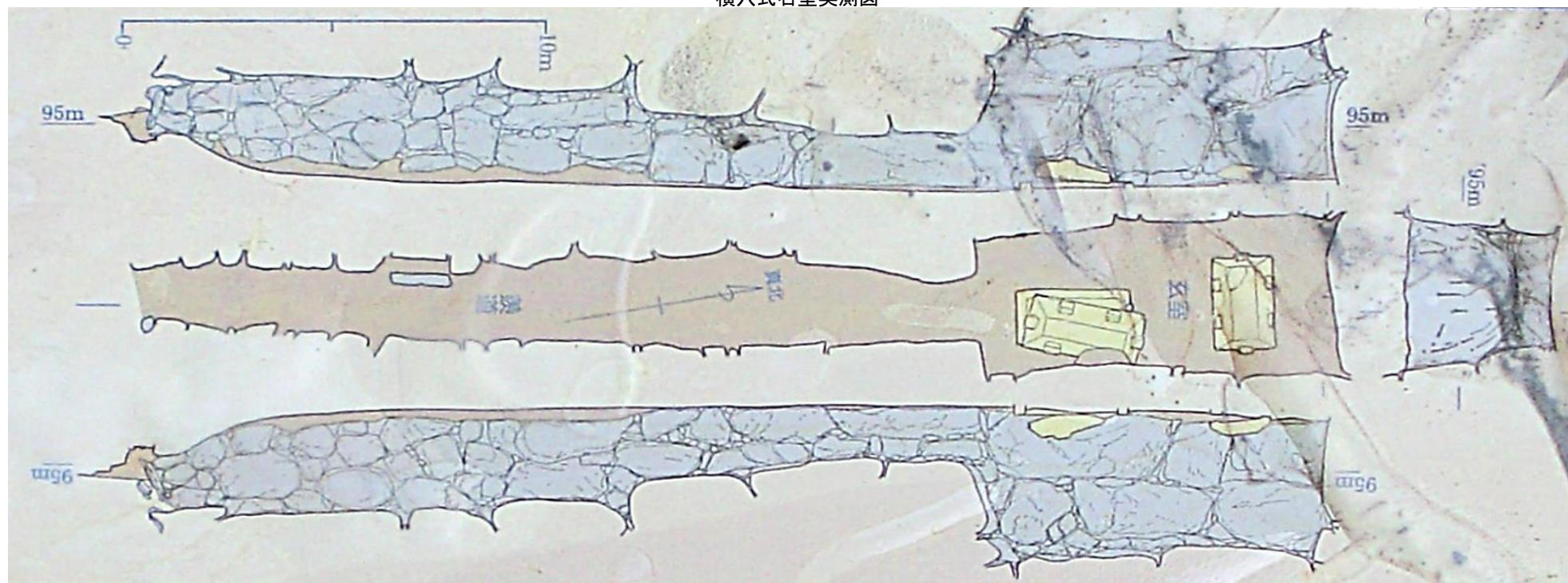


手前にある石棺一北より撮影 (右奥は室内庁書院蔵)

平成27年 撮影



横穴式石室实测图



こちらは欽明天皇の後・堅塩媛(蘇我稲目の娘)の石棺とも・・・



奥にある石棺—南より撮影—（写真は宮内庁書陵部蔵）

こちらが欽明天皇の石棺とも・・・



手前にある石棺ー北より撮影ー（写真は宮内庁書陵部蔵）

「史跡 丸山古墳」とある



後円部の一部フェンス内は畝傍陵墓参考地として立ち入り禁止になっている



後円部を後ろから見たところ



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



さて、これは括れ部辺りの墳頂で後円部方向を見たところ

[video](#)



振り返って前方部方向を見たところ



これは前方部の墳頂で後円部方向を見たところ

[video](#)



こちらは前方部の後ろで左手を見たところ

[video](#)



同じく、右手を見たところ/この前方に国道が通っており、墳丘が少し削られてしまっている



この道路が国道/この国道の部分は前方部の北西隅の墳丘であったのだが・・・

[video](#)



国道となってしまうている



削られてしまった北西隅の辺りから後円部方向を見たところ



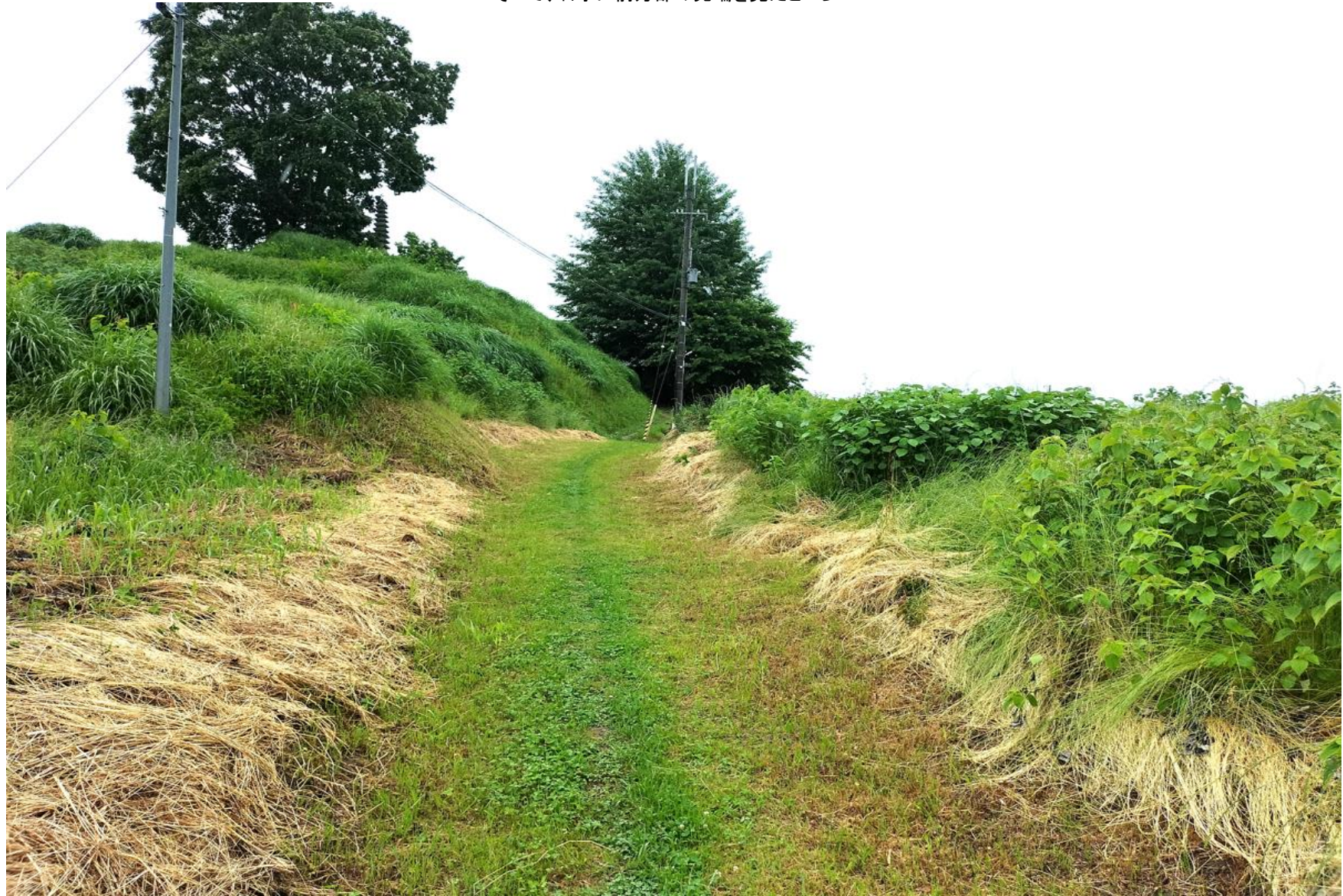
周濠の感じが見てとれる/前方に最初の説明板が見える



これは反対側で前方部から後円部方向を見たところ



そこで、右手に前方部の先端を見たところ



これがはっきりと残っている北東側の周濠

[video](#)



北側から周濠越しに墳丘全景を見たところ



北東側から括れ部辺りを見たところ

[video](#)



そこで、左手に後円部を見たところ



同じく、右手に前方部を見たところ



しかし、巨大だ！/5世紀末葉頃から前方後円墳が縮小されていく中で、6世紀後半になって何故300mを越えるような巨大前方後円墳が造営されたのであろうか！？



「5世紀末葉頃から前方後円墳が縮小されていく中で、6世紀後半になって何故300mを越えるような巨大前方後円墳が造営されたのであろうか！？」という問題について少し考えてみたい。

まず、見瀬丸山古墳の被葬者についてであるが、諸説はあるものの規模からして大王墓と考えるのが最も自然のように思われるので、欽明天皇の墓としよう。

突如として300mを越えるような巨大な前方後円墳が造営された理由は、古市古墳群の近くに所在する河内大塚山古墳(松原市)との関係で見てもよい。

別稿、「河内大塚山古墳(松原市)」で言及したように、6世紀中葉～後葉に突如として巨大な前方後円墳である河内大塚山古墳が造営され、それに触発された欽明天皇を支える大豪族、つまり蘇我氏は飛鳥の地に同等の規模をもつ見瀬丸山古墳を造営したのではなかろうか。それは時の権力の所在を明らかにするものであったと思われる。見瀬丸山古墳の完成後、推古朝になって後の堅塩媛の棺が追葬されたとしてはどうであろうか。(その際に石室の改築が行われたのではあるまいか？)

いずれにしても、見瀬丸山古墳は大王墓に相応しい規模を誇っていると思われる。

